

玉川上水・野の花だより No. 23

秋の七草

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 7月3日

夜半から早朝にかけて降り続いた霧雨が、奇跡的に午前中にやみ、梅雨の合間をぬって、7月2日に渋谷区土木部の皆さんと、笹塚の南ドンドン橋の袂で、「秋の七草」の植え付けを行いました。まだ、7月なのに「何故、秋の七草なのか？」と思われるかもしれません。霧雨に煙る野の花は、厳しい夏を、おそらく乗り越え、赤とんぼの飛ぶ秋空に向かって、季節をつないでくれるはずです。

「秋の七草」は、万葉の頃から、日本人に親しまれてきた野の花です。山上憶良が、次のように詠んでいます。

秋の野に 咲きたる花を 指折り(およびをり)かき数ふれば 七種(ななくさ)の花
万葉集 巻8の1537

萩の花 尾花葛花(くずはな) なでしこの花 おみなえし また 藤袴
(ふじばかま) 朝顔の花 万葉集 巻8の1538

南ドンドン橋にはハギ、ススキ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ(山上憶良の歌の「朝顔」に相当すると言われています)が植えられました。

橋の袂で、初老の方が声をかけてこられました。

「キキョウ、おふくろが好きな花なんだよね。もう、ずっと、連絡していないけど。」

風に乗って、息子さんの思いが、飛んでいくと、いいですね。



キキョウ(桔梗) 紫の花と、白い花

2026年7月3日 撮影